

RPKI in DNS DAY

木村泰司

2015年11月19日(木)

発表者

- **名前**

- 木村泰司（きむらたいじ）

- **所属**

- 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)
 - CA / RPKI / DNSSEC / セキュリティ情報：
調査 (執筆) ・ セミナー ・ 企画 ・ 開発 ・ 運用 ・ ユーザサポート

- **業務分野**

- 電子証明書 / RPKI / DNSSEC (DPS/鍵管理/HSM他)

Resource PKI (RPKI) の目的

- **アドレス資源 (IPアドレスやAS番号) の真正性を確認するための認証基盤**
 - 利用例：ルーティングの情報を確認するため
 - 利用例：移転元のIPアドレスを確認するため(構想)

リソース証明書



ROA(署名データ)



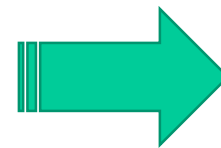
リソースホルダー

(IP指定事業者・歴史的PIアドレスホルダ・特殊用途用PIアドレスホルダ他)

RPKI検証サーバ



BGPルータ



RPKIの利用イメージ(1/2)

The screenshot shows the RPKI management interface on the JPNIC website. The page title is "ROA Web (JPNICNET)". It is divided into two main sections: "ROAの管理" (ROA Management) and "ROA発行のできるリソース一覧" (List of Resources that can be Issued).

ROAの管理

状態が「発行済」になるとそのROAはRPKIのリポトリで公開されている状態になっていることを示しています。ROAが発行済になるまでには5分程度かかることがあります。

Buttons: 作成, インポート, エクスポート, ROAを全て削除

ROA発行のできるリソース一覧

ROA発行のできるリソースです。この一覧は正規化処理されているため、WHOISデータベースと表記が異なる場合があります。

Buttons: ROAの一括作成

IPv4

Prefix	操作
192.41.192.0/24	ROAを作成
202.11.240.0/21	ROAを作成
202.12.30.0/24	ROAを作成

リソース証明書の一覧

ROAはリソース証明書が発行済になると作成できます。状態が「発行済」になるとそのリソース証明書はRPKIのリポトリで公開されている状態になっていることを示しています。リソース証明書が発行済になるまでには5分程度かかることがあります。

リソース	状態	有効期限
192.41.192.0/24	発行済	2016年4月2日 10:55:39
202.11.240.0/21	発行済	2016年4月2日 10:55:39
202.12.30.0/24	発行済	2016年4月2日 10:55:39

リソースホルダーが、発行されたリソース証明書の私有鍵を使ってROA (Prefixに対してBGPのOrigin ASを示した署名データ) に署名し、経路情報の正しい広告元 Origin ASを確認できるようにしておく。



リソースホルダー

RPKIの利用イメージ(2/2)

```
bgpd# show ip bgp
```

```
BGP table version is 0, local router ID is 192.168.10.1
```

```
Status codes: s suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal,  
r RIB-failure, S Stale, R Removed
```

```
Validation: v - valid, n - notfound, i - invalid, ? - undefined
```

```
SRx Status: I - route ignored, D - SRx evaluation deactivated
```

```
SRxVal Format: validation result (origin validation, path validation)
```

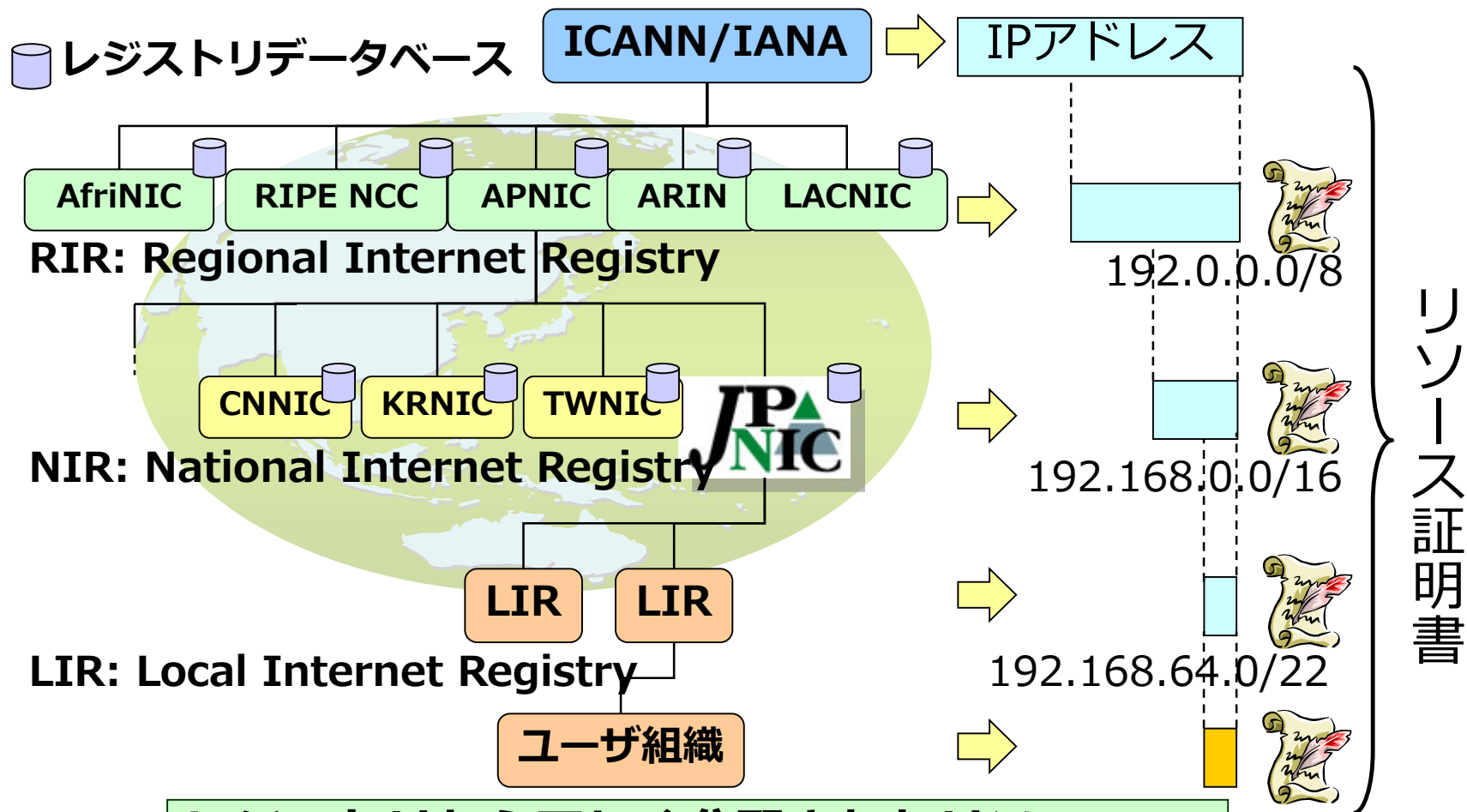
```
Origin codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete
```

	Ident	SRxVal	SRxLP	Status	Network	Next Hop	Metric	LocPrf	Weight	Path
*>	DE83681E	v(v,-)	+ 200,		192.168.1.0	172.16.10.1		200s	0	65001 64496
*>	FBF4BE57	n(n,-)	+ 100,		192.168.2.0	172.16.10.2		100s	0	65001 64497

```
bgpd#
```

対応ルータは、経路表でOrigin ASが正しいかどうかを判別でき、IPアドレスを不正に利用した経路情報を無視できる
= 経路ハイジャックの影響を受けないようにできる。

リソース証明書の役割



レジストリから正しく分配されたリソースであることを証明する

リソース証明書の例

Certificate:

Data:

Version: 3 (0x2)

Serial Number: 1 (0x1)

Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption

Issuer: CN=D5BBADA3

Validity

Not Before: Apr 15 10:24:39 2014 GMT

Not After: Apr 14 10:24:39 2019 GMT

Subject: CN=D5BBADA3

Subject Public Key Info.

Public Key Algorithm: rsaEncryption

Public-Key: (2048 bit)

sbgp-autonomousSysNum: critical

Autonomous System Numbers:

0-4294967295



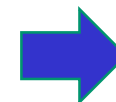
sbgp-ipAddrBlock: critical

IPv4:

0.0.0.0/0

IPv6:

::/0



X509v3 extensions:

X509v3 Basic Constraints: critical

CA:TRUE

X509v3 Subject Key Identifier:

18:CE:ED:52:F0:99:02:8A:58:3C:F1:7B:53:71:0E:1F:5D:37:4F:8D

X509v3 Key Usage: critical

Certificate Sign, CRL Sign

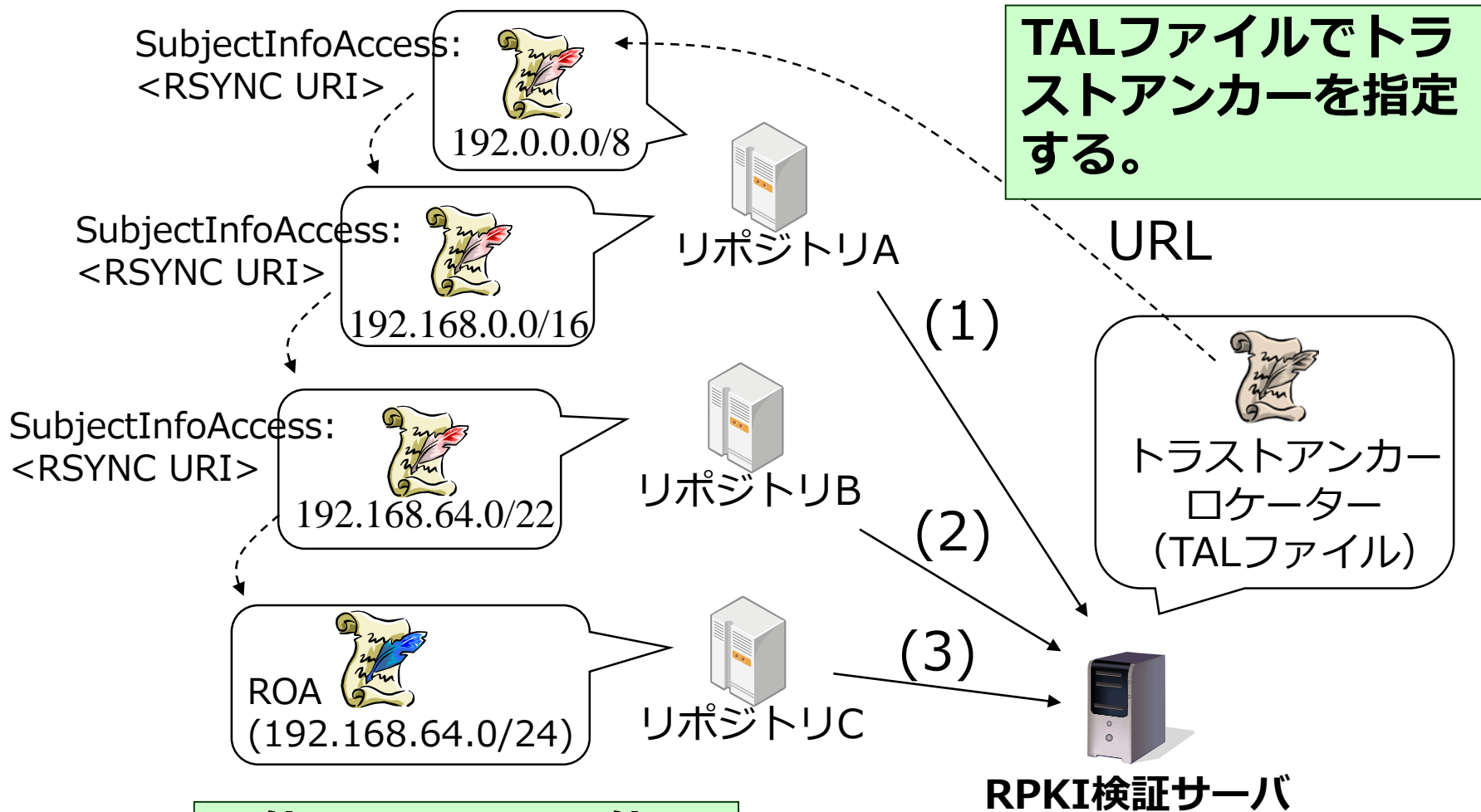
Subject Information Access:

CA Repository - URI:rsync://rpki01.nic.ad.jp/repository/

1.3.6.1.5.5.7.48.10 - URI:rsync://rpki01.nic.ad.jp/repository/jpnic-ta-03.mft

トラストアンカーと 信頼モデル

トラストアンカーと署名検証



上位のprefixは下位のprefixを内包する。

TALファイル – trust anchor locator



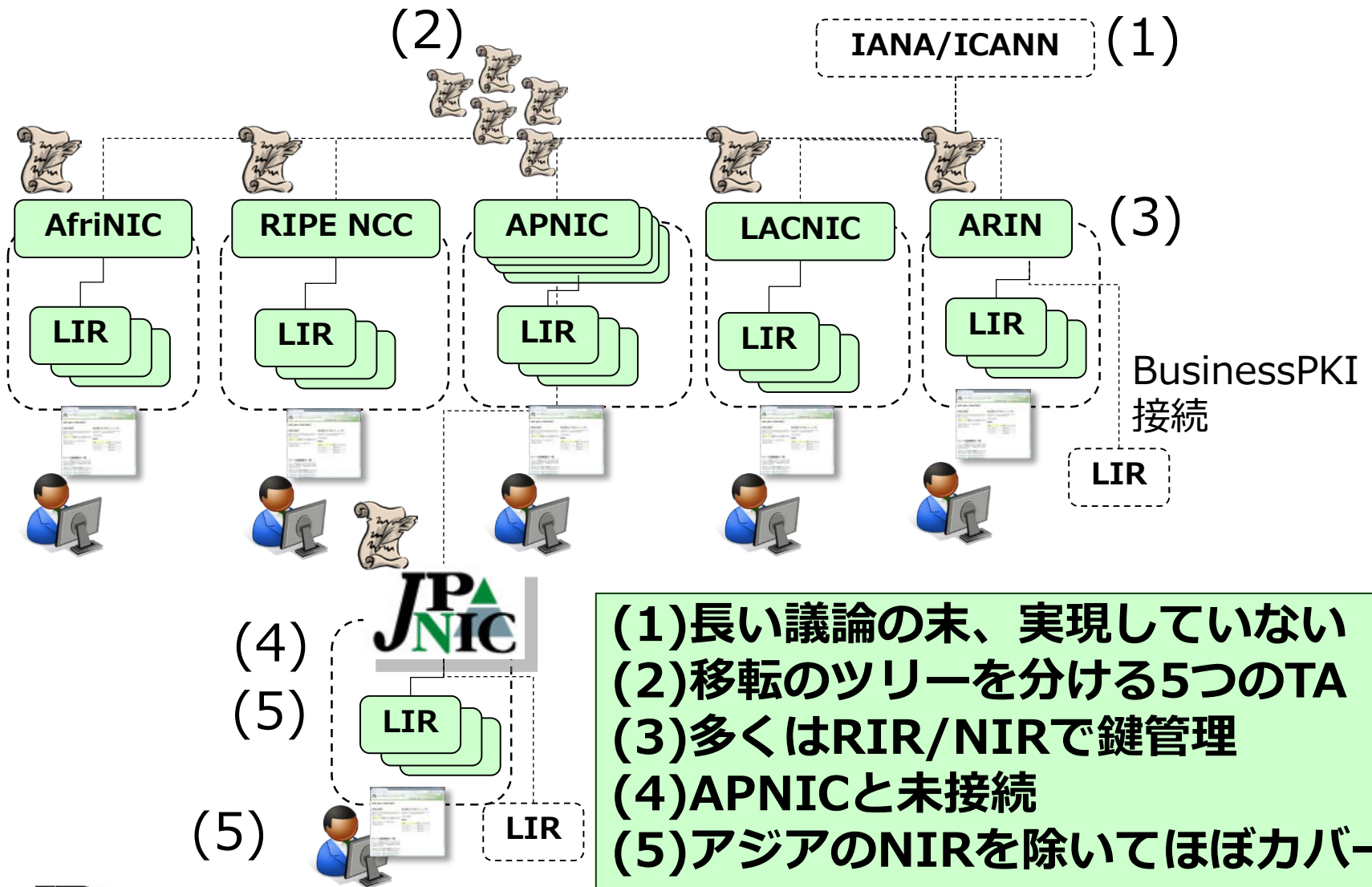
TALファイルの例

```
rsync://rpki-repository.nic.ad.jp/ta/jpnic-preliminary-ca-s1.cer
```

```
MIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAnjfovjOzuZP5zOT5iHtB  
3z35k9uarx3ltKHrh4eq1xO4f7i0Dt/VEsqLJxubfuRPUwskaH/96ewzqeeL9iPv  
vGHL479kJ6YrhN7StkNXLVePwx4uHe7DWuw0CSsRCLEu+SssWTiXyEp3olkgutUV  
mwZrNZ1aCfi8tvibz44v1iYvOYcTXRXgvwneJbxepqt+2xchHwMrjBIWsexdqVK7  
1/iMHXChEr6wCzZyFW2rJjeFEAF6nFnu1DDhb1bSve+PEd4PmrQ5vNeYkcffC3dL  
Y8ZrjCU51LFD441EA8ae0gDRBnnD7+O3J0rjUi+Y34xLu5XSw8nDordErnX31sqV  
XwIDAQAB
```

**署名検証する前に入手済みのTALファイルを読み込んで
トラストアンカーの証明書をダウンロードする。**

ツリー構造の実際



- (1)長い議論の末、実現していない
- (2)移転のツリーを分ける5つのTA
- (3)多くはRIR/NIRで鍵管理
- (4)APNICと未接続
- (5)アジアのNIRを除いてほぼカバー

トラストアンカーの指定

あるキャッシュサーバにおけるトラストアンカーの設定

```
% ls /var/rtcynic/conf/trust-anchors
afrinic.tal          apnic-rpki-root-ripe-
origin.tal
apnic-rpki-root-afrinic-origin.tal  apnic-testbed.tal
apnic-rpki-root-arin-origin.tal     jpnict-preliminary-ca-s1.tal
apnic-rpki-root-iana-origin.tal     lacnic.tal
apnic-rpki-root-lacnic-origin.tal    ripe-ncc-root.tal
%
```

トラストアンカーと信頼モデル

- **トラストアンカーは5つのRIR**
 - とJPNIC
- **トラストアンカーはTALファイルで指定**
 - RPKIの署名検証ソフトウェアに付属
 - 正しいTALファイルであることの確認方法...
- **第三者による認証業務のチェックはない**
 - RPKIのCertificate Policy(CP)はある(RFC6484)
 - どの位セキュアな運用を行うか(ex. CPS)の指標はない

RPKIにおける鍵管理

生成

RPKI Webサービスでは、RIR/NIRのシステム内で鍵生成される。BPKI(Business PKI)接続の場合はLIR側。規定なし。

公開

リポジトリ(rsyncサーバ)への公開。

配送/導入

予め入手したTALで確認。

更新

RPKI Webサービスの場合は自動的にシステム内で行われることが多い。BPKI接続の場合はBPKIを使って更新。

失効

リポジトリにCRLが置かれる。OCSPなどはない。抜け防止のためにManifest。

期限/廃棄

2年ほど。鍵更新を伴わない証明書更新はない。

RPKIのDNSとのかかわり

- **署名つきオブジェクトの配送**

- TALファイルに記述されたURI
- AuthorityInfoAccessに記述されたURI

⇒ 証明書やROA一式の正しさは署名検証で確認

- **DNSのRPKIへの応用**

- DNSを使ったRPKIへの機能連携は...特になし
- 逆引きDNS(DNSSECは必須)を使って経路情報を確認する提案(RLOCK RR)がIETFで行われているが標準化は進んでいない。

おわり